

2015年7月14日

技術経営・産学連携を学ぶ

題目： 技術者経営 — “企業から見た産学連携の意義と利益”
日米大企業・大学、そして起業経験から」

講師： 青木均先生（群馬大学客員教授、モーデック最高顧問）

日時： 2015年07月13日（月） 16:00～17:30

場所： 群馬大学理工学部（桐生キャンパス）総合研究棟 502号室

概要： 産学連携、産学官（公）連携は、大学などの教育機関を中心に近頃活性化している。大学側から考えた利益については、比較的考えやすくまた、研究のテーマや質を向上させる上で重要と考えられている。しかし、企業から見た場合には、その考え方については様々である。必要性を感じないという企業も少なくない。

ここでは、経営の視点から長期、短期で得られる利益や、製品開発への組み込みなどについて、日本企業、米国企業と比較しながら考察する。また、それら経験を元に起業した研究開発型ベンチャー企業において、産学連携研究における意義、連携の棲み分け、成果の定義など実例を挙げながら紹介する。最後に、産学連携研究を研究開発・製品化フローに当てはめて提案したい。

本セミナーの対象者としては、将来、企業に入社、大学などの教育機関に所属すると思われる大学院学生、これから産学連携、産学官（公）連携を検討する予定の製造業、技術サービス業、ソフトウェア開発業などの方々を考えている。

<http://analog.el.gunma-u.ac.jp/main/showworkshop?id=354>

印象に残った話

- 産学連携の成功は 企業側のプロジェクトマネージャーによるところが大きい。（MIT Management Review 2010）

群馬大学工学部で産学連携において成功された名誉教授の先生の十数年前の話「産学連携の成否は、企業側にその産学連携に熱心な人がいるかどうかにかかっている」との話思い出した。

- 米国シリコンバレー地区のハイテク企業 ⇒ 企業内に大学教員や大学院生が入り込んでいる。オープンイノベーション、他企業の研究所との人的交流等 外部との交流を積極的に行っている。







技術経営 (technology management)

MOT (Management of Technology)

技術マネジメント (Engineering Management)

Technology Innovation Management

⇒ 人間の生産活動や社会活動を取り扱う学問分野。

主に製造業がものづくりの過程で培ったノウハウや概念を
経営学の立場から体系化したもの。

すなわち技術を使って何かを生み出す組織のための経営学。

その目的は、産業界、社会にあって、イノベーションの創出をマネジメントし、
新しい技術を取り入れながら事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、
技術を含めて総合的に経営管理を行い、経済的価値を生み出していくための
戦略を立案・決定・実行すること。

(Wikipedia より)

地域と大学

「シリコンバレーのみならず、元気の有る企業や地域には必ずその核となる
大学が ございます。企業は社会のニーズを捉えるには長けていますが
その実現には、原理原則からのアプローチが壁を破る為に必要な場合があり
大学の先生方からのご支援が良い結果を生み出して居ります。

勿論、優秀な卒業生に活躍頂く場を提供して、好循環を作り出しています。」

(シリコンバレー在住者より)

写真 文責 群馬大学大学院 理工学府 電子情報部門
電気電子工学 情報通信システム第2研究室